

「青少年指導員制度50周年記念誌発行に寄せて」

港北区青少年指導員協議会 会長 石井 一也



国際港都横浜の北に位置する港北区は、現在の人口34万8千人を超える市内最大のマンモス区です。青少年指導員制度50周年の記念すべき節目を迎え、諸先輩が築いてこられた足跡と、将来に向かっての方向性を誌面に記せれば幸いです。

昭和43年の制度発足以来、現在では全市で約2,700名が県知事・市長より委嘱を受け、当区では164名が青少年の健全育成に取り組んでおります。

近年は特に「少子化」「核家族化」そして「インターネットの急激な発展」による青少年を取巻く環境は将に激変しております。合理化を推し進める余り、「人間としての原点」を見つめ直さなくてはなりません。「デジタルからアナログへ」と舵をきり、いのちの大切さ・優しくあたたかな心・より人間らしくをテーマに掲げ、引続き青少年の健やかな成長を見守るための「地域づくり」に青少年指導員各位の更なるお力添えをお願い致したく存じます。幼い時から自然環境下での実体験により、さまざまな命を見つけ、触れ、それを感じるセンスを身につけることの大切さを、幼い子を持つ親、ひいては我々大人が感じ取り、次世代へ受け継がれて行くよう祈念致しております。

「青少年指導員制度50周年を祝して」

港北区長 横山 日出夫



青少年指導員制度50周年、誠におめでとうございます。

皆様には半世紀もの長きにわたり、青少年の健全育成に取り組んでいただき、心より感謝申し上げます。

青少年との関わりや信頼関係は、短い期間で簡単に築けるものではなく、長きに渡る地道な活動によって得られるものです。

社会の環境が大きく変化し、人と人との関係性や、地域の繋がりが薄くなりがちになる中、様々な取組を通じて、地域や家族の温かみ、命の大切さを子ども達に伝え続けてきた青少年指導員の皆様の活動は、本当にかげがえのないものです。

港北区では、「活気にあふれ、人が、地域がつながる『ふるさと港北』」を基本目標に、地域の皆様とともにまちづくりに取り組んでいますが、青少年指導員の皆様はまさにその取組を実践していただいているものです。これからも青少年が明るく豊かに育まれるまちとなるよう、ご支援をお願いいたします。

50周年を契機に、青少年指導員の皆様が今後ますます活躍されますことを、心より祈念申し上げます。

<港北区の歴史>

昭和 14 年 4 月に港北区が誕生しました。当時は、現在の港北区、緑区、青葉区、都筑区をあわせた区域で、人口は約 5 万人あまりでした。

昭和 44 年に緑区（現在の緑区、青葉区及び都筑区の一部）を分区、さらに平成 6 年 11 月に行政区再編成により区の北西部地域が都筑区に編入されて現在の港北区になりました。

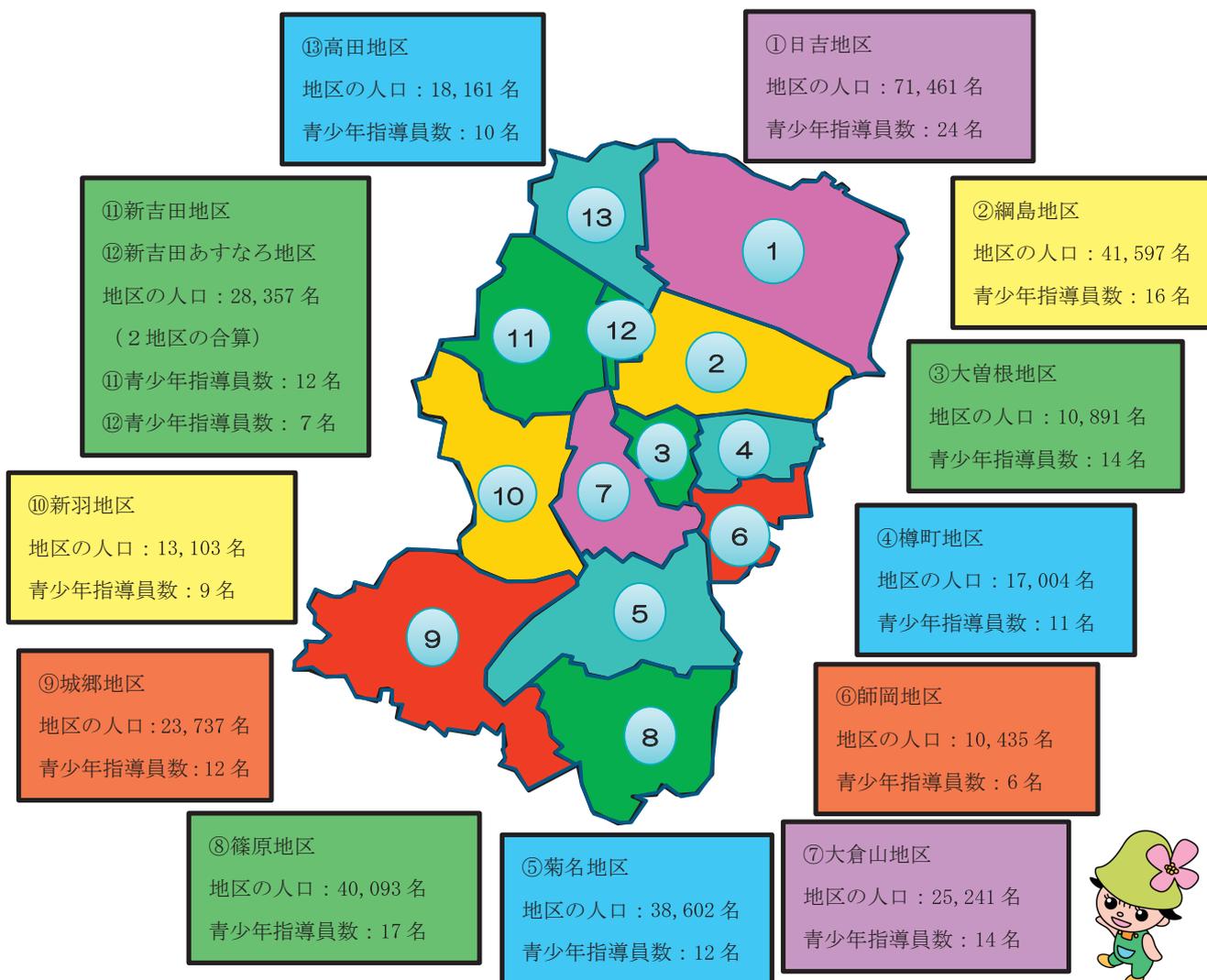
港北区は横浜市の北部に位置し、人口は全 18 区中最大の 34 万 8,553 人（2017 年 7 月 1 日現在）です。区民の平均年齢も 3 番目に若く、活気のある区です。

<港北区青少年指導員協議会組織>

- ◆ 会 長 会：協議会の最終決定機関
- ◆ 広報委員会：広報誌の発行（年 2 回）
- ◆ 実行委員会：区行事の運営
- ◆ ホームページ委員会：区ホームページの管理・運営
- ◆ 青少年指導員委嘱者数：164 名（平成 29 年 4 月 1 日現在）

<港北区概要>

- ◆ 港北区人口・・・34 万 8,553 人
- ◆ 面積・・・31.37 km²
- ◆ 区の木・・・ハナミズキ
- ◆ 区の花・・・ウメ
- ◆ 区のキャラクター：ミズキ



※地区の人口：平成 28 年 9 月現在（参考データ：住民基本台帳データ参照）

ひと声かけ運動・はひとふるネット

この運動は港北公会堂での発足会(2001年7月)から現在まで続いている活動です。昨今、いじめ・暴力・自殺・殺人・性的犯罪・放火・薬物乱用・幼児虐待・誘拐・恐喝・ひったくり・万引きなどの事件と青少年の関わりは深刻な社会問題となっています。その発生要因の一つとして青少年ひとりひとりが孤立化し、さみしさから自分の殻に閉じこもりがちになり心が荒んでしまうということがあります。



【中学生へのひと声かけ運動】

心のさみしさ、悲しみを癒す要素として、「T a l k = 親身になって話をする」

「T e a r = 涙させてあげる」「T i m e = 間をとってあげる」の3つのTがあるとされています。

しかし3Tを実践する信頼関係を築くには5年10年という長いスタンスの関わりが必要です。そこで港北区では、青少年と関わる第一歩として、「おはよう・こんにちは」から始める「ひと声かけ運動」を実施しています。



ペットボトルロケット大会

今年度で21回目の開催となるペットボトルロケット大会はふるさと港北ふれあいまつりの一環として、毎年秋季に鶴見川河川敷の樽町公園にて行われており、毎回多くの親子連れが参加します。

この大会は、ペットボトルのリサイクルを通じて、子どもたちに環境問題を考えてもらうきっかけとしています。7月から8月にかけて、区内13地区で製作講習会および予選会を開催し、9月の港北区大会では、予選会を突破した「地区選抜」と「一般参加」の300名を超える参加者で上位入賞を競います。ロケットのデザインを競う部門も毎年趣向を凝らした作品が展覧され

【平成26年8月25日(月)神奈川新聞社提供】

ます。一生懸命作ったロケットが、勢い良く飛び出した時の、感動と喜びに溢れた子どもたちの顔を見ることが、青少年指導員みんなの喜びです。



【ペットボトルロケット発射】



【デザイン部門のロケット】

自然体験教室

当たり前になっていたメダカ・オタマジャクシ・トンボ・いろいろな鳥たちが最近いなくなってしまったことの重大さを、特に幼い子を持つ親、ひいては我々大人が感じとり、それを次の世代を担っていく子供たちに実体験を通して体得させることが重要なポイントです。

一向になくならない、いじめ、虐待、自殺等によりかけがえのない尊い命が奪われています。「命は何よりも代えがたい 大切なものなんだ」ということを、自然環境を通じた教育で伝えることが必要です。地球という一つの星で、3千万種の生物と一緒に暮らしていることを肌で感じ、共存していくために、考え、努力していかなくてはならないことや「命を感じるセンス」を育み、私たち人間がその環境を守っていかなくてはならないんだという思いを持った「本当のやさしさ」を身につけた人間への成長を願った活動です。



【参加者全員集合の記念写真】

「青少年指導員制度50周年を迎えて」

緑区青少年指導員連絡協議会 会長 松浦 正義



青少年指導員制度が発足してここに50周年を迎えましたこと、心よりお喜び申し上げます。青少年指導員制度50周年記念事業として開催した横浜市青少年指導員研修会では、光栄にも緑区が幹事区を務めました。正副会長会、企画部会、広報部会が成功に向けてスクラムを組み、逞しくなっていくのを強く感じました。

私どもは「子どもたちと防災意識を共有できる街を目指して」を研修会テーマとし、講演では東京大学特任教授の片田氏より、「子どもたちの生き抜く力を育む防災教育」を学びました。当区協議会では、平成28年度より防災意識を育むことをテーマに、次世代を担う青少年が防災へ興味・関心を持つことに重点を置いた体験型イベントをスタートしました。人と人との関係性が希薄になりがちな今日において、改めて地域における結束力を高める活動を継続していきたいと思います。

各区の青少年指導員の皆様からご指導を頂戴しながら、緑豊かなこの土地で生まれた子ども達をこれまでも、そしてこれからも温かく見守っていきたいと思います。

「50周年記念誌の発行によせて」

緑区長 小野崎 信之

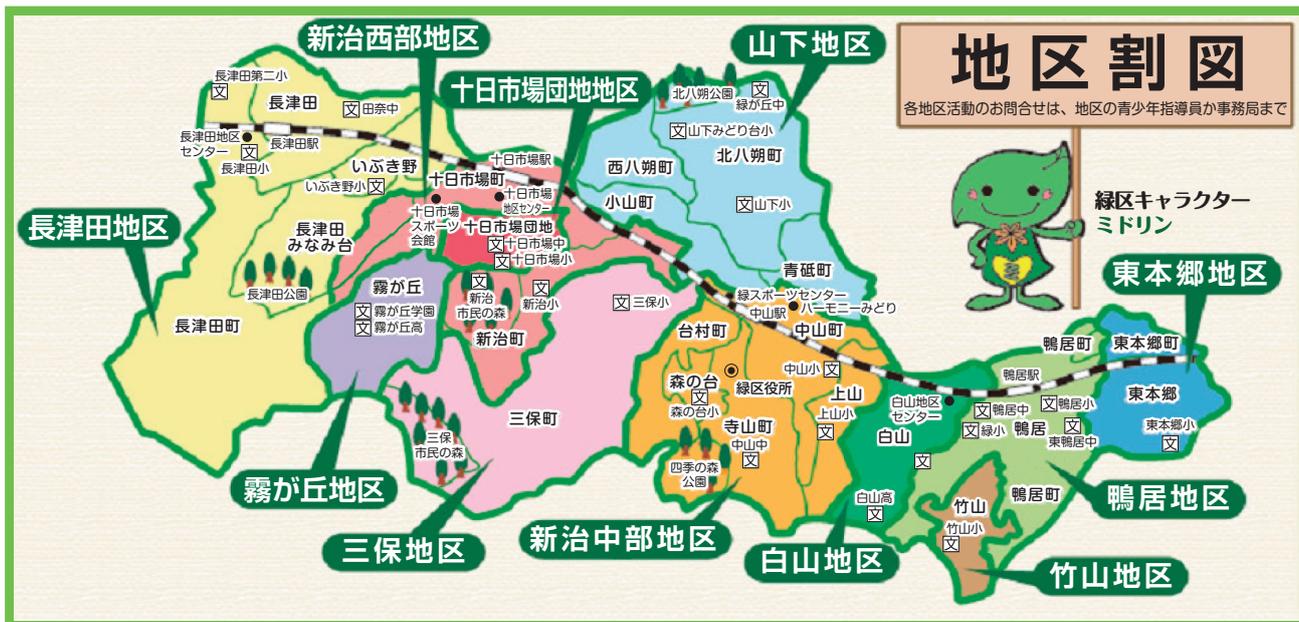


横浜市の青少年指導員制度が発足して50周年を迎えられたことをお祝いいたしますとともに、長年にわたるご尽力に対し、深く感謝申し上げます。

緑区も平成31年には区制50周年を迎え、長い年月を共に歩んでまいりました。この間、核家族化の進行や近隣関係の希薄化、インターネット、SNS等によるコミュニケーション手法の変化など、青少年を取り巻く環境は大きく様変わりしています。このような時代だからこそ、人との触れ合いや社会体験の場となる地域の青少年育成活動は、ますます重要になっていると考えます。

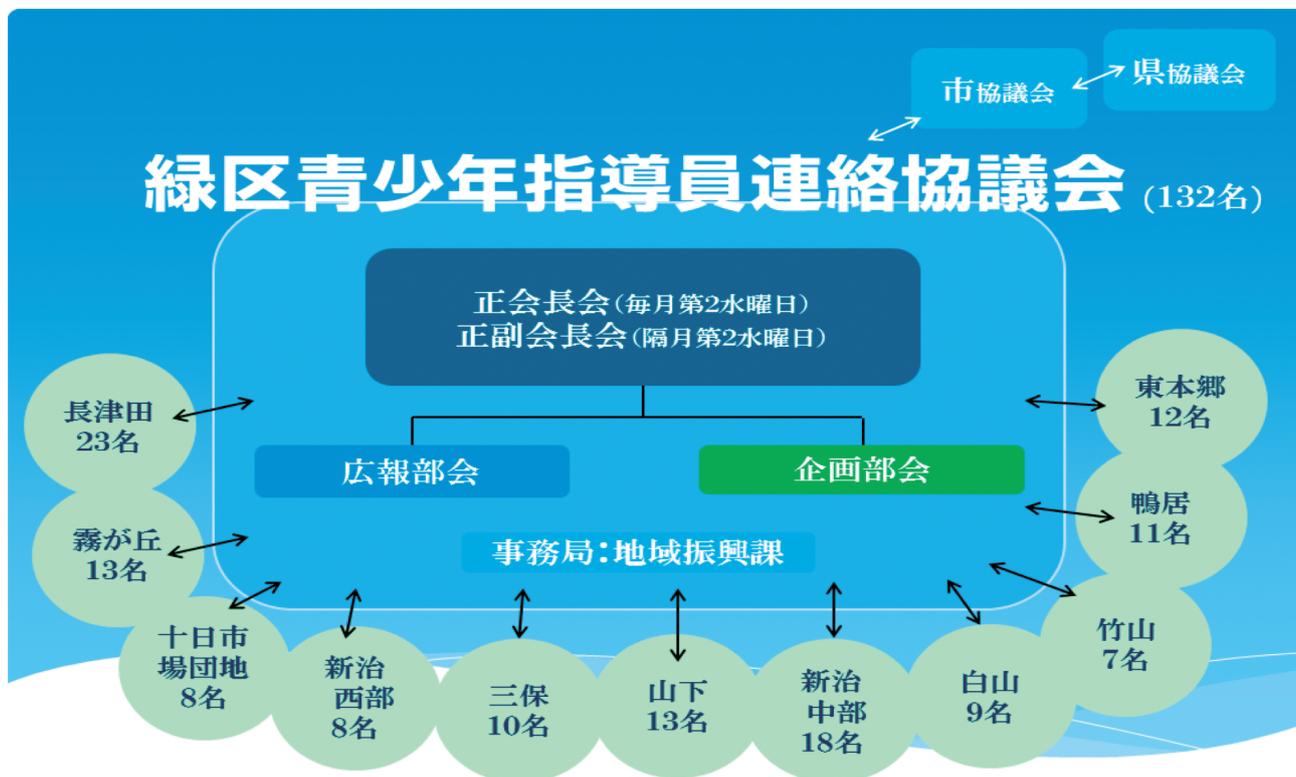
緑区においては、「防災」を通じた自助・共助の精神の養成、地域でのお祭りや運動会による交流、パトロールを通じた子どもの見守り等、様々な活動を実践していただいております。心より感謝申し上げます。

結びとなりますが、各区の青少年指導員の皆様相互の連携・交流が益々盛んになるとともに、それぞれの会がさらに発展しますことを祈念しまして、お祝いの言葉といたします。



<年間活動> ※平成29年度 ★下記以外にも各地区それぞれ地区特有の事業に積極的に参加しております。

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 7月 2日 緑区青少年指導員夏季研修 | 11月 5日 全市一斉統一キャンペーン活動 |
| 7月 8日 青少年の健全育成を進める県民大会 | 11月12日 神奈川県青少年指導員大会 |
| 7月22日 全市一斉統一行動パトロール活動 | 11月26日 ゲームで学ぼう！防災イベント |
| 7月～8月 社会環境実態調査 | 1月 8日 「成人の日」を祝うつどいに係る協働 |
| 9月10日 横浜市青少年指導員研修会 | 2月17日 横浜市青少年指導員大会 |
| 10月15日 緑区民まつり | 2月25日 緑区青少年指導員冬季研修 |





みどりさわやかロードレース大会

(十日市場団地・新治西部・三保地区合同イベント)

第14回みどりさわやかロードレース大会が平成30年1月7日(日)午前9時十日市場中学校校庭で小学3年生男子、女子からスタートしました。

このロードレースは、十日市場団地、新治西部、三保連合自治会と十日市場中学校と中学校区、新治、三保、十日市場小学校が協力して運営しています。当日は小学生242名、中学生259名、一般17名合計518名の参加がありました。

ティーボール大会

(山下地区)

山下地区青少年指導員は、山下連合自治会主催のティーボール大会・体育祭・マラソン大会並びに山下地区青少年育成会の各種事業や研修会・デイキャンプ等の行事に参加協力しております。

右の写真は平成29年5月21日に開催しましたティーボール大会の様子です。



キャンプ

(鴨居地区)



鴨居地区では毎年、夏休みに鴨居小学校をお借りして、ワクワクキャンプを実施しています。約200人が参加し、中学生がジュニアリーダーとして子ども達をまとめます。中学生は各班の児童を妹や弟のように接し、小学生は中学生をお姉さん、お兄さんのように慕っています。

食事の後はキャンプファイヤーの周りで踊ったり、おやじバンドの演奏を聞き、体育館でのゲーム、映画鑑賞をして思い出深いキャンプになります。天を焦がすほどのキャンプファイヤーは一見の価値有ります。

鴨居青少年指導員その他、鴨居小PTA、鴨居おやじの会、鴨居連合自治会の協力でワクワクキャンプは成り立っており、地域の大人同士の繋がりをも強める活動になっています。

ゲームで学ぼう！防災イベント

小学生を対象とした防災啓発イベントを平成28年度からスタートしています。防災にちなんだゲームをスタンプラリー形式で楽しむことで、防災意識を自然に身に付けるきっかけづくりとなることを目指しています。



横浜市青少年指導員研修会

平成29年度は緑区で横浜市青少年指導員の研修会を行いました。緑区青少年指導員連絡協議会では1年以上をかけて、本研修会の準備をしてきました。おかげさまで、お呼びした講師の防災啓発講演をはじめ、三保地区の「ハミングバード」のみなさんの演奏、事業紹介の評判も良く、緑区での各地区特有の取組もしっかりとお伝えすることができました。



三保地区「ハミングバード」のみなさん



東京大学特任教授の片田敏孝氏



緑区事業紹介パネル展示